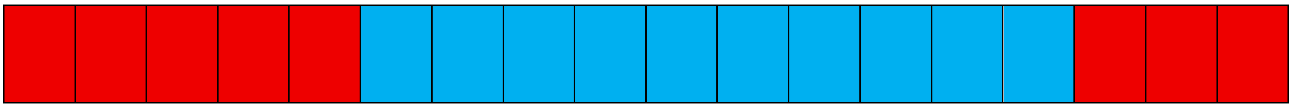
父から５円もらった。

続いて、母から 10 円もらった。

父からまた３円もらった。

父から合わせて何円もらいましたか。

数直線上で表せば、



赤い部分を合わせて

５円+3 円＝8 円

このように、

間に挟まった 10 円は無視します。

同じように、

「右へ３、上に１」と

「右へ１，上へ４」とを合わせるとき、

スタート地点は無視して

右（3+1）

上（1+4）と計算することにします。

これを§02 で見た（a、ｂｋ）式に表すと

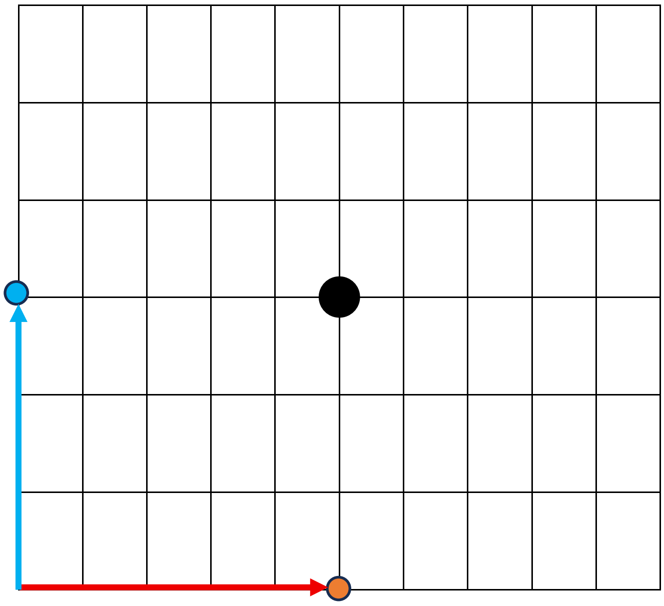
（3+1ｋ）＋（1+4ｋ）

＝｛(3+1)、(1ｋ+4ｋ)｝

＝（4、5ｋ）

これをもう一工夫してみたい。

話しを単純にするために、



赤点への**矢印**は、(右へ５　**上**へ 0)進むを表し、

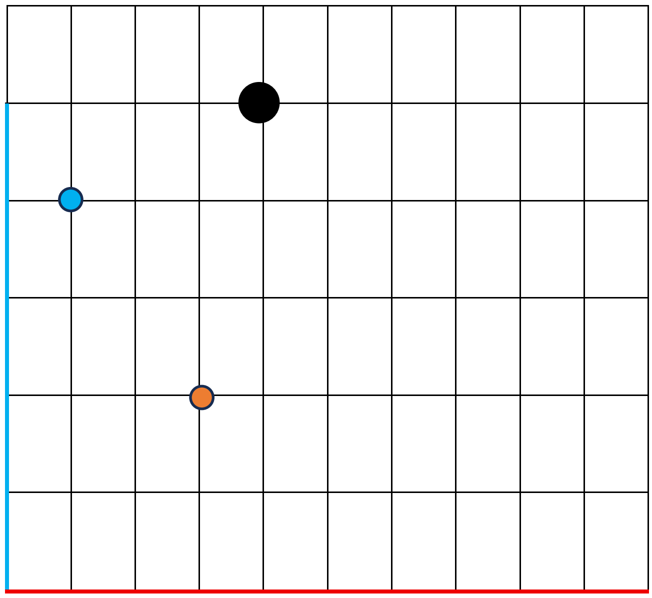
青点への**矢印**は、(**右**へ **0**　**上**へ 3)進むを表している。

合わせると　　　　　　（右へ５　**上**へ 3）**進む。**

長方形の残る一点 ● の座標を求めることが出来る。

これは不思議でもなんでもないですね。

では、次はどうでしょう。



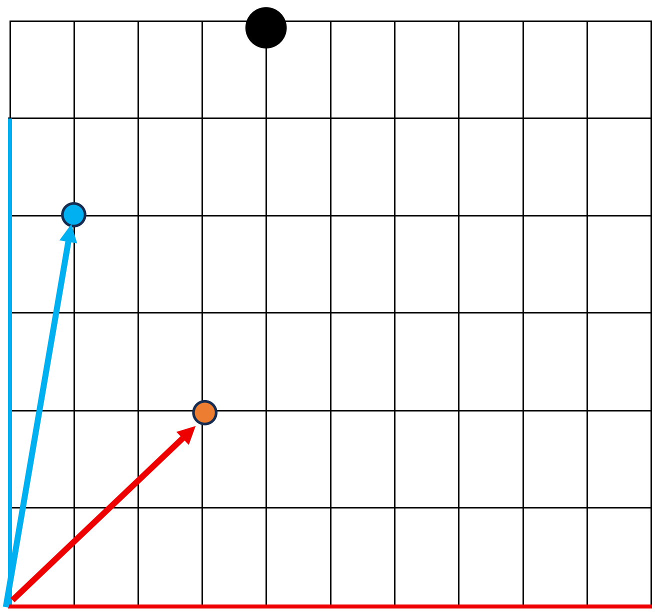
赤丸の位置は　ｘ軸は 3　　ｙ軸は 2。

青丸の位置は　ｘ軸は 1　　ｙ軸は 4。

赤丸を、　　右へ 3　＋　上へ 2

青丸を、　　右へ 1　＋　上へ 4　　(＋

合わせると　　右へ 4　＋　上へ 6



赤点への矢印は、(右へ３　上へ 2)進むを表し、

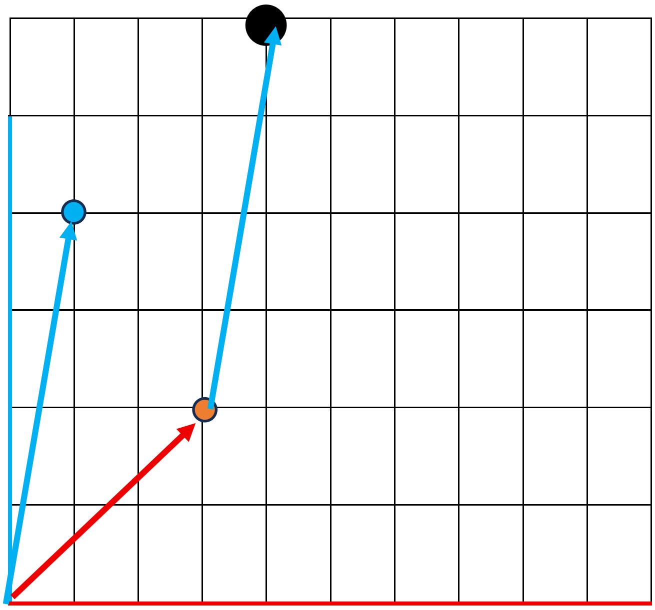
青点への矢印は、(右へ１　上へ 4)進むを表している。

この２つの矢印の合計は

右へ 4、上へ 6 だから、

平行四辺形の残る一点を求めることになる。

次の図をみてみましょう。

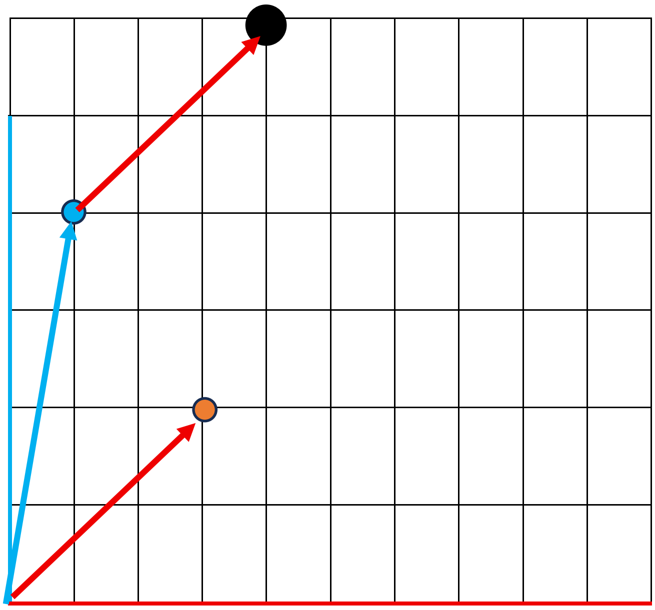


青い矢印の**始まりの点**を

原点（0　0）から、

赤い矢印の到達地点の（3　2）からにしたら、

足し算で求めた地点と**一致**しました。



赤い矢印の始まりの点を

原点（0　0）から、

青い矢印の到達地点の（1　4）からにしても

足し算で求めた地点と**一致**しました。

矢印の足し算も

ふつうの足し算と同じように

順序を交換しても結果は同じです。

数平面の加法と

向きの有る線分の加法とが一致するのですね。

それがまた、

平行四辺形の残る一点を求めることとも一致。

数学は、

関係のなさそうなことを

見事に結びつける働きがあるのですね。

もしかしたら、それは、

同じことを別の見方をしていることなのかも

知れませんね。